

# Book Review



## ドライマウス

今日から改善・お口のかわき

阪井丘芳 著



Reviewer

平野裕之

(京都府・平野歯科医院)



A4 判変, 40 頁  
定価 2,940 円  
(本体 2,800 円+税 5%)  
医歯薬出版刊

ドライマウスという言葉が市民権を得てから、どのくらいになるだろうか？ 少なくとも筆者が学生だった 20 数年前には、口腔乾燥症といった言葉だった。シェーグレン症候群がその代表で、唾液の減少が歯周病、齲蝕、義歯性潰瘍の原因となり、種々の口腔疾患に関与すると病理学や口腔外科の講義で習ったように思う。

時代は変わり、ドライマウス外来なる専門科が歯学部附属病院に設置され、かつて言われていたように高齢者に特徴的な疾患ではなく、若年者にも起こりうる事が示されたことは、隔世の感がある。しかしながら、この病気に関わる種々の口腔疾患に関して、開業医の 1 人としてどのくらい患者さんに正面から向き合い、症状軽減に寄与できたかに関しては、はなはだ心許ない。

1 つには、ドライマウスの原因をきちんと整理して指摘できたかということ、もう 1 つはドライマウスという疾患の存在を、少なくとも自院に来院された患者さんにだけでも啓蒙できた

かということである。

本書は、ドライマウスに困っている方、あるいは予備軍の方にお読みいただく役に立つように書かれている。しかし、一方で冒頭に「歯科でできるお手伝いをご紹介します」とあるように、歯科医師にドライマウス治療に取り組むよう、エールをおくる書でもある。平易に書かれていながら、読み進むと受診された方が病気に対する理解を深められるだけでなく、特筆すべきは歯科医師がどのようなことに留意して、ドライマウスの原因を特定し、どのような治療を選択すれば良いかがわかるような構成になっている点である。

診断には、きめ細やかな問診が決め手となるようであるが、術者側が口腔乾燥を指摘するより、病気に馴染みのない患者さんに、自分で気づいてもらうほうが治療に入っていくやすい。本書のなかほどにある「ドライマウスチェックシート」を待合室に置いておくと、非常に役立つ。

また、ドライマウス対策の保湿剤などの広告も多種にわたり目にするが、

お勧めは本書に写真入りで解説されている唾液腺・口腔粘膜マッサージへの同製品の応用である。一度ご自身で試していただきたい。効果があることを実感されるであろう。原因別の対応が記されているのも効果的である。これまで漠然と説明してきたことが、困っている患者に整理されて伝わることであろう。

あとがきに、健康長寿を目指したドライマウスの治療が解説されている。そこに今後歯科医師が進むべき道が提起されているように思う。すなわち、未曾有の高齢社会を迎える日本にあって、病気になる前に健康管理することがたいへん意味のあることになってくるものと考えられる。糖尿病などの全身疾患と歯周病との関連が指摘されている昨今、口腔の健康管理はますます重要性を帯びてくる。今こそ、唾液の分泌量を増やすことが全身の健康管理への一助になることを、われわれ歯科医師がもっと声を上げる時期に来ている。ぜひ、医院の待合室に、先生の書棚に揃えていただきたい 1 冊である。